

群馬大学医学部附属病院

群大病院だより

GUNDAI NEWSLETTER

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-15 / TEL 027-220-7111(代) / ホームページ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されます!



「健康寿命の延命等を図るための脳卒中・心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法(いわゆる「脳卒中・循環器対策基本法」)」が令和元年12月から施行されております。すっかりCOVID-19パンデミックの陰に隠れてしまったのですが、各都道府県では脳卒中や心臓病の対策のための計画を立てて遂行しています。

群馬県では、2022年における県内の死因別死亡者数は、脳卒中を含めた循環器系疾患による死亡者が7205名であり、悪性新生物6075名を大幅に超えている状況です。悪性新生物と比較して循環器系疾患による死亡者数の増加が顕著である傾向は年々強まっております。そのため、循環器疾患に対する予防・治療など対策を行うことが喫緊の課題です。

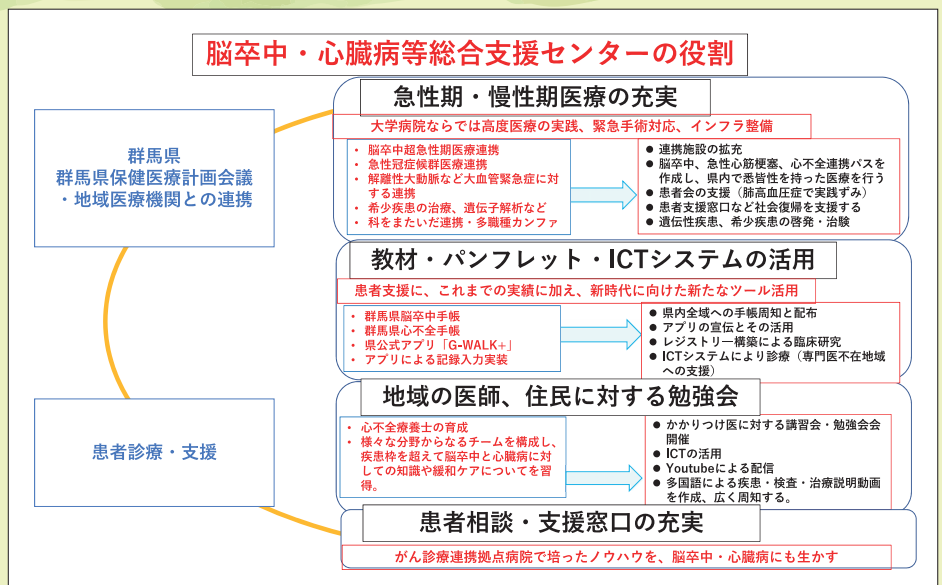
群馬大学医学部附属病院は、厚生労働省が募集をしておりました「令和6年度脳卒中・心臓病等総合支援センター事業」に採択されました。本センターは、脳卒中・循環器病の予防と治療に加えて、患者さんやご家族への情報提供や相談支援、かかりつけの先生や群馬県民の皆様へ脳卒中・心臓病予防の普及啓発、地域の医療連携を深めることなどの活動を行います。そして、県民の健康寿命延伸を目指します。

本事業は、脳神経外科学、脳神経内科学、循環器外科学、循環器内科学、患者支援センターを中心とし、関連する科とスタッフが協力しながら業務を遂行し、事業を発展させていきます。また群馬県とも緊密な連携を取ります。

具体的な活動として、

- (ア)：循環器病患者・家族の相談支援窓口を設置します。
 (イ)：地域住民の方々を対象とした、循環器病についての治療・予防に関する内容も含めた市民公開

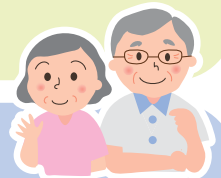
脳卒中・心臓病等総合支援センターの役割



講座開催や情報提供、普及啓発など行います。

- (ウ)：地域の医療機関、かかりつけ医の先生方を対象とした研修会、勉強会等を開催します
 (エ)：脳卒中・心臓病をもつ患者さんの相談支援を効果的に行う資料(パンフレットなど)の開発・提供を行います。
 (オ)：事業を行うにあたり ICT(情報通信技術)を積極的に活用します。

本センターは9月1日に開設しました。どうぞ積極的なご活用をお願いいたします。



も く じ

- 脳卒中・心臓病等総合支援センターが開設されます! …… 1 ページ
- 院内救命講習について …… 2 ページ
- 新任挨拶 …… 2 ページ
- 患者支援センターからのお知らせ
 ご挨拶(患者支援センター副センター長 根井ひとみ) …… 3 ページ
 群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座の開催報告 …… 3 ページ
 第14回群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会の開催報告 …… 3 ページ
- 病院探検! 「放射線部」 …… 4 ページ
- 小児科CFプロジェクト思春期ルーム(Teens Terrace) 竣工 …… 4 ページ
- ICT(情報通信)技術を用いた地域医療支援システムのご紹介 …… 4 ページ

院内救命講習について

当院では、患者さんの急変時に迅速な救命処置が行えることを目的に、すべての病院職員（事務職含む）を対象とした院内救命講習を実施しています。毎月1回の定期講習と、毎年1～2回行われる集中強化週間（1日3回を5日間）で毎年約900人以上の職員が院内救命講習を受講できる体制を構築しています。

講習では、心肺停止の患者さんに対して実施する一次救命処置（Basic Life Support : BLS）を習得する実習を行っています。e-ラーニングによる事前学習を併用しながら、講習ではシミュレーターを用いて、胸骨圧迫や人工呼吸、AED（自動体外式除細動器）使用法の実技を経験します。

これまでにすべての病院職員が院内救命講習を受講していますが、今年度からは一次救命処置の知識と技術を維持するための更新制度を設けました。今後もすべての病院職員が院内救命講習の定期的な受講を行うことで、患者さんの医療安全に繋げていきます。

（救命救急センター 澤田 悠輔）



講習会の様子



e-ラーニング動画

新任挨拶

腫瘍内科 教授 高張 大亮



2024年4月より腫瘍内科教授を拝命いたしました高張 大亮（たかはり だいすけ）と申します。腫瘍内科は、がんの進行度にあわせて薬物療法や免疫療法、ゲノム診療や緩和ケアを提供する、このたび新設された診療科です。地域に根ざした群馬県のがん診療の拠点として、個々の患者さんにとって最善・最適な治療を提供していきたいと思っております。がん治療は患者さんだけでも、主治医だけでもできません。患者さんやそのご家族と医療チームが一緒になって取り組むものです。お互いに手を取り合い、目標に向かって着実に前進していきましょう。



脳神経外科 教授 大宅 宗一

2024年4月から脳神経外科教授に着任いたしました。脳神経外科では、おもに脳卒中・脳腫瘍・脊椎脊髄疾患・機能的疾患（パーキンソン病ほか）・頭部外傷、などの手術治療を受け持ちます。群馬県の皆様に、困ったときでも群馬大学にかかれば安心、とっていただけるように精一杯努力してまいります。われわれは、自分の家族のように患者さんに接し、確かな技術と最新の治療そして温かい医療を提供していきたいと思っております。

患者支援センターからのお知らせ

ご挨拶

患者支援センター 副センター長 根井 ひとみ



令和6年5月より、中里智子先生の後任として患者支援センター副センター長に着任いたしました根井ひとみと申します。

当センターは、地域連携、患者相談窓口、入退院センター、退院調整、がん相談支援センター、難病相談支援センター、脳卒中・心臓病等総合支援センター、セカンドオピニオン外来の部門で構成されております。医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、事務職員を合わせて、総勢約40名の多職種が連携して業務に取り組んでおります。

相談窓口では、医療福祉、社会保障制度、経済的な問題などについての相談や、がんや難病に関する相談など、様々な相談を受け付けております。また、地域の病院や診療所との連携として、FAX予約やセカンドオピニオンなども受け付けております。以上のような取り組みを通して、患者さんが安心して医療を受けられるようサポートいたしますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会 ・市民講座の開催報告

群馬県のがん対策推進を目指し、「群馬県がん診療連携拠点病院地域懇話会・市民講座」を、当院ホームページにおいてオンデマンド配信をしております。今回は、群馬大学医学部附属病院 血液内科 科長・診療教授の半田 寛先生と群馬大学医学部附属病院 乳がん看護認定看護師の一場 慶先生からご講演をいただいております。昨年同様多くの皆様にご視聴いただければ幸いです。配信期間は2024年8月1日～2025年3月31日までとなっております。

オンデマンド配信 視聴無料

市民講座

配信期間 2024年8月1日(木)～2025年3月31日(月)

※視聴中はいつでも視聴可能です。

【プログラム】

【第1回】
「免疫・細胞・分子を使った治療で治す血液がんの最先端治療」
群馬大学医学部附属病院 血液内科 科長 診療教授 半田 寛先生

【第2回】
「チームで関わるアピアランス（外見）ケアの実際」
群馬大学医学部附属病院 乳がん看護認定看護師 一場 慶先生

配信方法
群馬大学医学部附属病院ホームページからご覧いただけます。
どなたでも自由にご覧いただけますので、ぜひご覧ください。
URL: <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?p=12646>

配信先
群馬県がん診療連携拠点病院 / 群馬県がん診療連携協議会 / 群馬大学医学部附属病院

申込不要

第14回 群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会の開催報告



令和6年7月4日（木）に、群馬県医師会ならびに郡市医師会の先生方や地域医療連携登録施設の皆様及び群馬県内医院の皆様をお招きし、第14回群馬大学医学部附属病院地域医療連携施設交流会を開催いたしました。今回は5年ぶりに対面開催となり、計184名の多くの方々にご参加いただき、盛況のうちに会を終えることができました。お忙しい中ご出席いただきました皆様に、感謝申し上げます。

群大病院は、地域に根ざした病院として、今後も地域の医療機関との前方・後方連携をさらに深め、群馬県の医療に貢献していく所存です。皆様の変わらぬご指導とご支援を引き続きよろしくお願い申し上げます。



病院探検！「放射線部」



さまざまな医療スタッフと共に放射線診療に貢献

CT や MRI などの画像検査や IVR と呼ばれる画像ガイド下治療、さらに放射線治療を実施する中央部門です。所属する診療放射線技師は55名、画像診断を主に担う画像診療部には後期研修医などを含め24名の放射線科医が所属していますが、そのほかさまざまな診療科・職種のスタッフが入り出しています。先進的な IT 技術に溢れていますが、放射線被ばく管理や造影剤の安全使用など、部門特有の医療安全管理も必要で、特に気を使っています。



造影剤急性副作用シュミレーション実施時(MRI室です)

小児科CFプロジェクト思春期ルーム
(Teens Terrace)竣工

昨年度、多くの方々から支援を頂いた思春期ルーム (Teens Terrace) が、完成いたしました。病室を一室改装し、入って左側は3段のカーペット敷きの床となっており、ゴロゴロしたり、テラスのように座って外を眺めたりできるようになっています。TV、巨大スクリーン、音響設備も備え、壁、窓の防音を施しました。右奥には、造りつけのソファ、右手前には勉強スペースがあります。原稿執筆時点(7月下旬)では、部屋の外の廊下の外装が終了していませんが、もう少しで完成し、お披露目会を開催する予定となっています。皆様のご支援のおかげで、居心地のよいスペースを用意することが出来たと思います。子どもたちが、入院生活から少し逃れて思い思いの時を過ごすことを楽しみにしています。ご寄附、ご支援、本当にありがとうございました。



ICT(情報通信)技術を用いた地域医療支援システムのご紹介

令和6年春から専門医が在籍する当院と地域の病院を ICT 技術により結び、診断と治療のレベルアップを目指すシステムを構築・運用を開始しました。群馬県では、救急医療・脳卒中・心臓病はじめ、専門医の限られている地域があります。脳卒中・心筋梗塞などの循環器系疾患、急性腹症などは、緊急の処置が必要かどうかを判断するため、当院にいる専門医が心電図や画像などの情報を確認することで診療の手助けが可能となります。医師不足でもある本県において、早期診断・治療の手助けを行えるシステムです。

心電図・CTなど
画像共有カルテモニター
画面共有リアルタイム
超音波画像共有

群大と専門医がいない地域を結んで情報共有

ICTを活用した群馬大学医学部附属病院
一病院・医院間診療／患者支援一

群馬大学医学部附属病院「群大病院だより」

第17号 2024年9月

編集 ■ 群大病院だより編集委員会

発行 ■ 群馬大学医学部附属病院

発行日 ■ 2024年9月5日

ホームページ ■ <https://hospital.med.gunma-u.ac.jp/>

病院の理念

大学病院としての使命を全うし、
国民の健康と生活を守る。

基本方針

安全・納得・信頼の医療を提供する。
次代を担う人間性豊かな医療人を育成する。
明日の医療を創造し、国際社会に貢献する。
医療連携を推進し、地域医療再生の拠点となる。